

1. 植栽図の種類と違い

植栽図は計画・基本設計段階の植栽計画図と、実施設計段階の植栽図では書き方が異なる。また、緑化申請図書としての植栽図と見積図としての植栽図も異なる。植栽図に求められる事項に留意して作成する。

段階	図面名称	記載内容例
計画段階	植栽計画図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画に対しての緑地のコンセプトの記載</li> <li>・色塗りの植栽計画図で、樹木の配置がわかる記載</li> <li>・図面には詳細の樹種の記載は一般的にはしない。</li> <li>・平面図以外に断面図やスケッチ、全体のイメージ写真が必要。</li> </ul>
基本設計段階	植栽計画図 (申請用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高木と中木、低木、地被類などの配置と数量表のある平面図。</li> <li>・平面図の他、緑地の求積図が必要。</li> <li>・必要に応じて接道緑化部の断面図が必要。</li> </ul>
	植栽計画図 (概算見積用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植栽樹木の位置と樹種、数量がわかる平面図。一般的には色塗りの平面図で、数量表と特記事項を記載した図面。</li> <li>・一般的には立面図、断面図も作成。</li> <li>・植栽樹木の説明用のイメージ写真が必要。</li> </ul>
実施設計段階	植栽図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植栽樹木の位置と樹種、数量がわかる平面図で、数量表と特記事項を記載した図面。必要に応じて広い緑地の場合は高中木の植栽図と低灌木・地被類の植栽図に分けることもある。</li> <li>・外構との取り合いの断面図も作成。</li> <li>・設計説明を考慮すると、色塗りの植栽図が説明しやすい。</li> </ul>

2. 緑化申請図と概算見積図の違い

緑化申請図の作成は基本設計図段階で、全体の建設コストおよび植栽工事費が決定していないので、基本計画に合わせて、緑化基準を満たしているか精査し、基準を満たしている植栽図とする。緑化基準の植栽は最低基準でこれを元に概算見積図とすると、竣工時の見栄えが悪くなる恐れがある。概算見積図では樹木の形状寸法及び植栽密度と植栽基盤を十分に確保しておくことが重要となる。逆に概算見積図を申請図とすると、コスト調整で植栽数量が申請より少なくなっていると変更申請が必要となるので注意する。

3. CADでの作図

20年前までは、T 定規を使用し、シャープペンやロットリングで作図をしていたが、現在は小住宅の庭の設計以外は CAD 図での作図が一般的となっている。

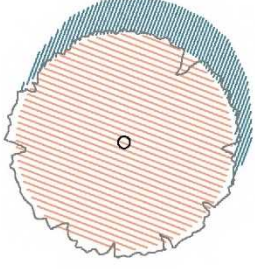
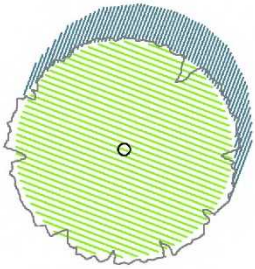
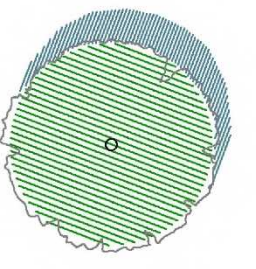

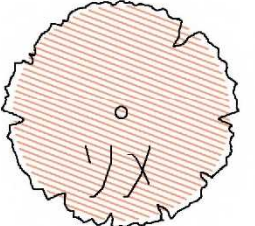
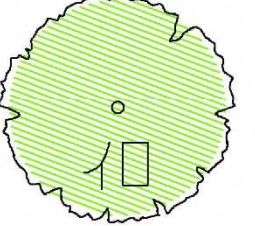
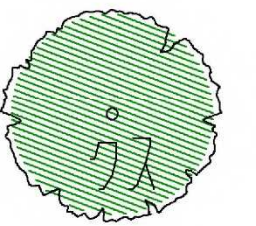
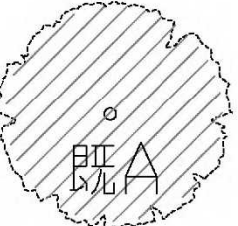
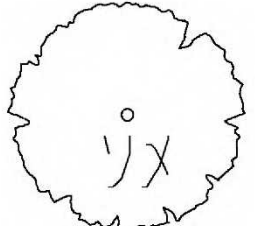
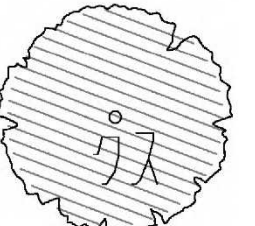

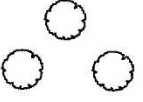

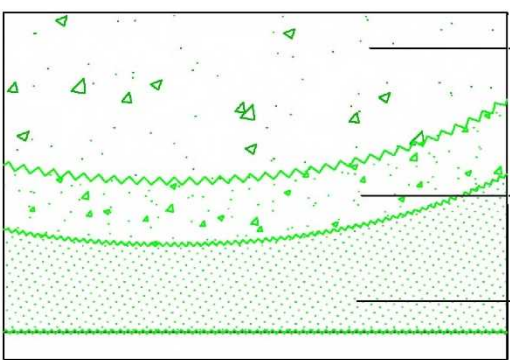

また、印刷は A1サイズの製本としていたが、データでのやり取り、パワーポイント等での説明で、手元の配布資料は A3または A4が一般的となっている。色塗りの色鉛筆などの着色から線の色、ハッチングでの色で簡単に着色可能で、変更も容易となっている。さらに、割付け寸法や面積計算が非常に簡易となっている。

したがって、建築の全体の構成にもよるが A3をベースに作図すると出図、印刷も容易である。

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>① 基本計画(A)と基本設計(B)では色の着いた木を使用し、実施設計(C)では色なしのもので表現する。</li> <li>② 常緑樹と落葉樹、落葉花木の色分けをすると植栽イメージ、植栽の考えが伝えやすい。</li> <li>③ 基本計画(A)では樹木名は記入せず、基本設計(B)、実施設計(C)では樹木名の記号を記入する。</li> <li>④ 生垣や灌木や地被の植栽ラインはポリラインで ZIGYZAG の線種で記入し、ハッチングする方法がある。ポリラインで記載すると面積が容易に測れる。</li> <li>⑤ 灌木や地被類、シバはハッチングで区別する。必要に応じて色分けする。</li> </ol> |
|--|

4. 樹木の表現例

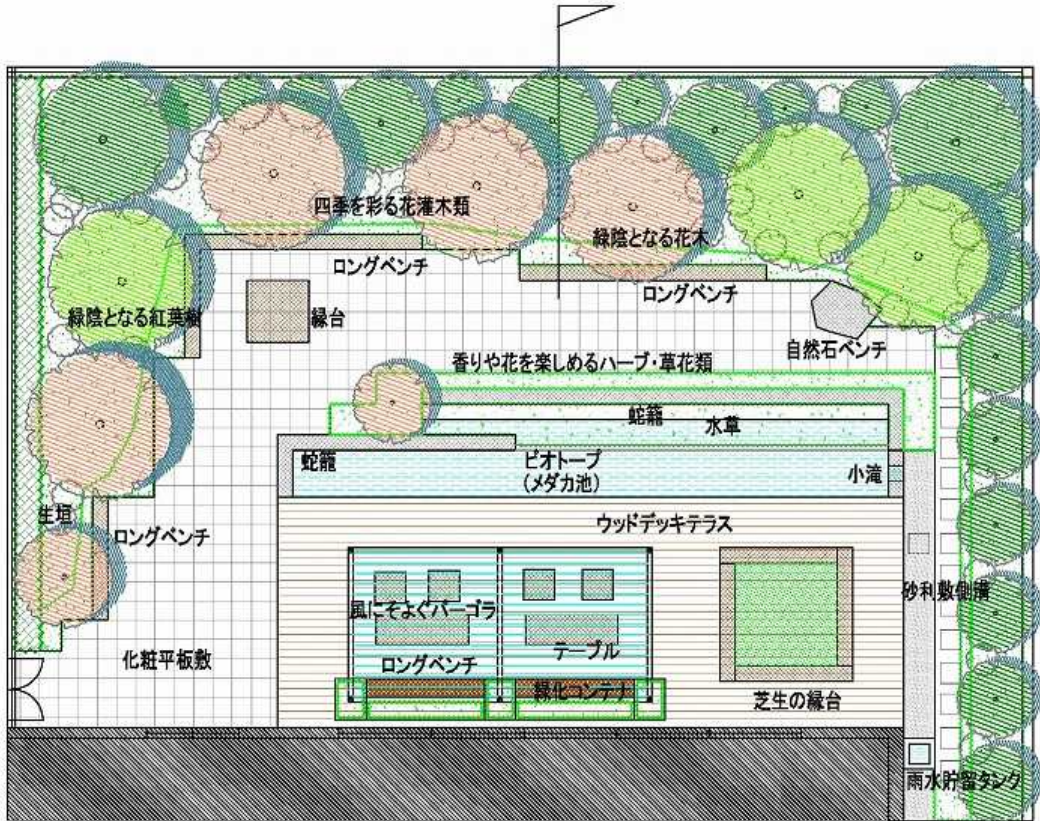
下記は AUTOCAD・LT を使用した作図例。

			
落葉花木 (A)	落葉樹 (A)	常緑樹 (A)	タケ (A)
			
落葉花木 (B)	落葉樹 (B)	常緑樹 (B)	既存樹
			
落葉樹 (C)	常緑樹 (C)	中木類 (C)	低木類 (C)
			
生垣 (A)			
	灌木類		
生垣 (B)(C)	グランドカバー類		
	地被植物類混植等		
	シバ タマリユウ		

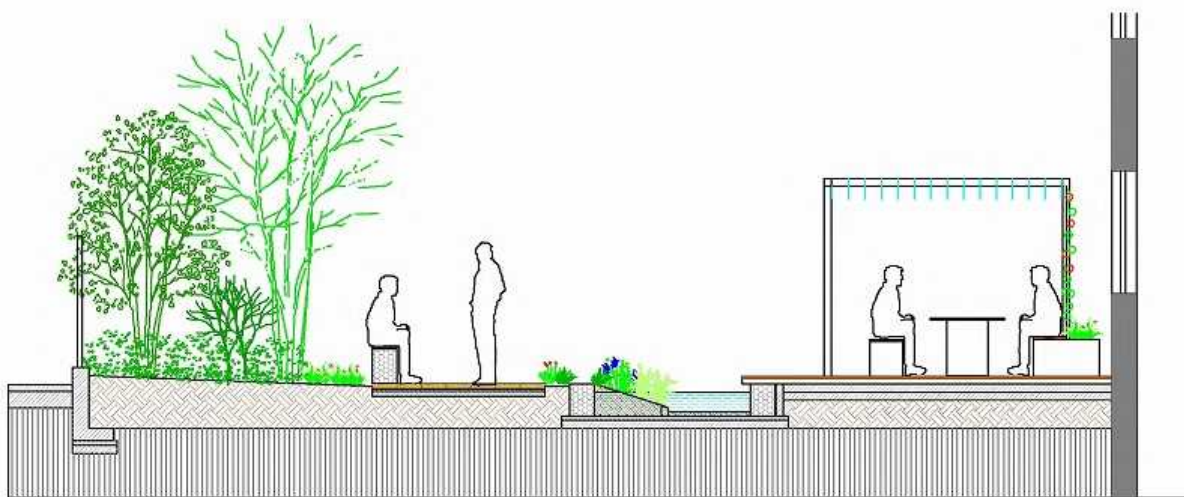
① 植栽時の形状寸法に合わせて拡大縮小する。  
 ② ハッチングの違いや色の違いで分類する。



5. 計画段階での作図例



中庭植栽計画平面図 S=1:\*\*\*



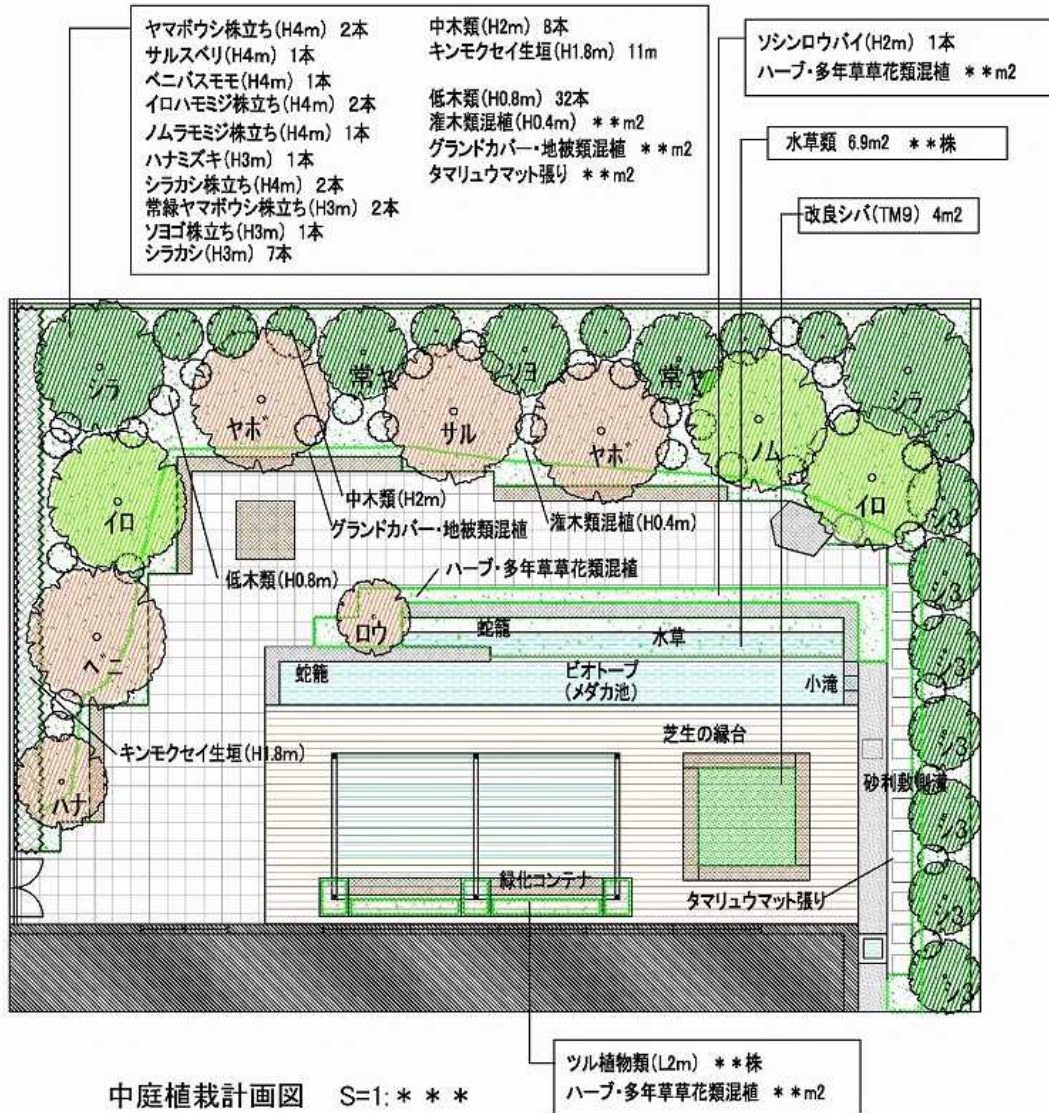
中庭植栽計画断面図 S=1:\*\*

AUTOCAD・LTを使用した作図、着色例



6. 基本設計段階での作図例

基本設計段階では、数量の入れた植栽樹木一覧表を記載するなど概算見積ができる図面とする。



■ 植栽樹木一覧表例 (一部)

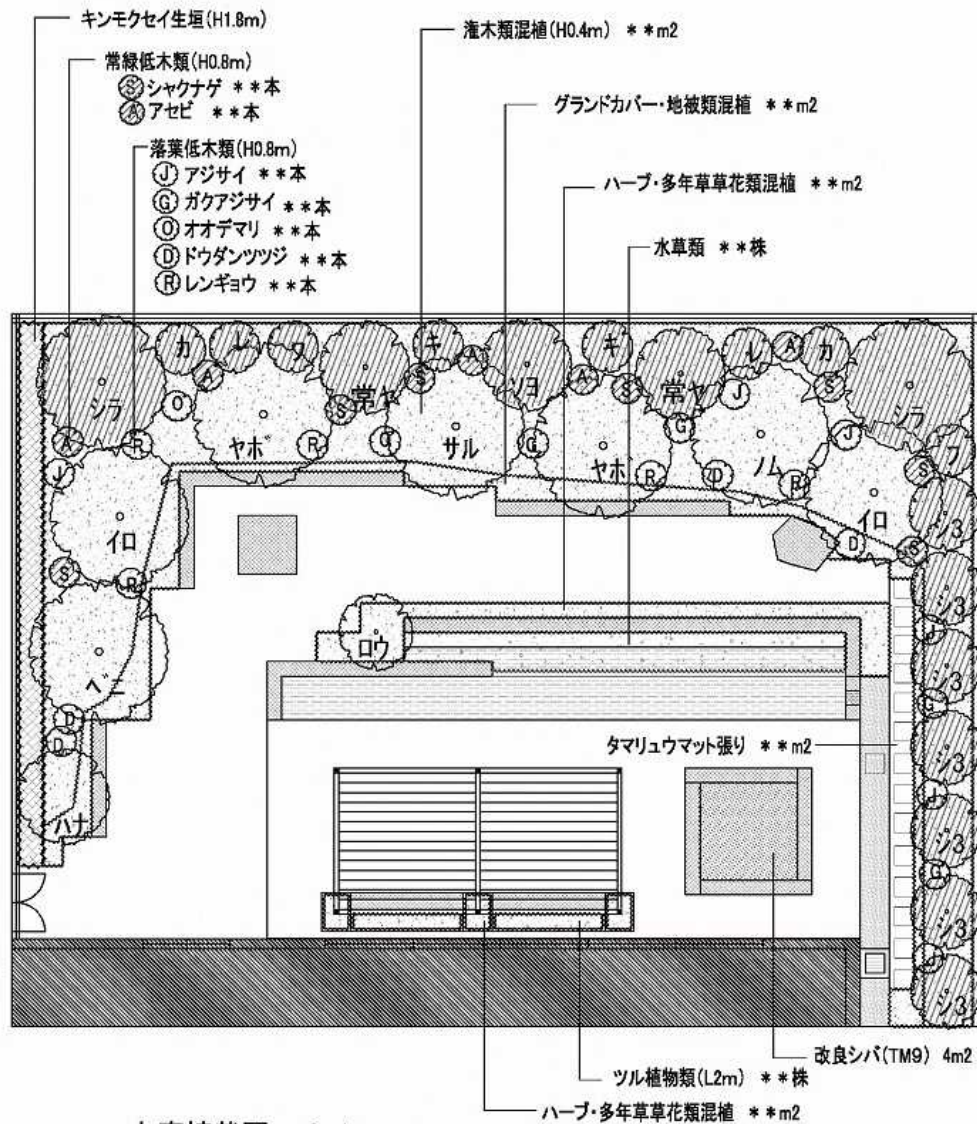
記号	名称	形状寸法			単位	数量	備考
		H	C	W			
ヤホ	ヤマボウシ株立ち	4.0	5~6株立		本	*	ハツ掛け支柱
ベニ	ベニバスマモ	4.0	0.21	1.8	本	*	ハツ掛け支柱
	中木類	2.0	0.6		本	**	1本支柱
	キンモクセイ生垣	1.8	0.5		m	**	
	低木類	0.8			本	**	
	灌木類混植	0.4			m <sup>2</sup>	**	7本/m <sup>2</sup>
	グランドカバー・地被類混植				m <sup>2</sup>	**	
	グランドカバー類	0.2			m <sup>2</sup>		25本/m <sup>2</sup> 50%
	地被類	ポット径10.5			m <sup>2</sup>		36株/m <sup>2</sup> 50%
	客土	平均客土厚50cm			m <sup>2</sup>	**	浄水発生リサイクル土

■ 凡例(一部)

<中木類>
フイリマサキ、カラタネオガタマ、
キンモクセイ、レッドロビン等
<低木類>
(落葉) アジサイ類、オオデマリ、
ドウダンツツジ、レンギョウ等
(常緑) シャクナゲ、アセビ等
<灌木類混植>
(常緑) サツキ、ツツジ類、
ジンチョウゲ、ビヨウヤナギ、
ハクチョウゲ、グミ・ギルドエッジ、
シャリンバイ、フイリノアオキ等
(落葉) ヤマブキ、ユキヤナギ等

7. 実施設計段階での作図例

実施設計段階の図面では、数量表の他、特記事項なども記載する。



中庭植栽図 S=1:\*\*\*

■ 数量表例 (一部)

記号	名称	形状寸法			単位	数量	備考
		H	C	W			
⑥	ガクアジサイ	0.8	3本立ち		本	*	
③	セイヨウシャクナゲ	0.8		0.6	本	*	
	客土	平均客土厚50cm			m2	**	浄水発生リサイクル土

■ 特記事項例 (一部)

1. 植栽樹木に適した植栽基盤とすること。客土厚はシバ・地被類は15cm、低灌木部30cm、中木部は40cm、高木部は60cmを基準とする。客土下30cmは排水性確保のために耕うんすること。
2. 表層は整地の上、パーク堆肥等でマルチングをすること。厚さは2cm以上。
3. 壁等の基礎で十分な基盤が確保できない場合には、人工地盤緑化工法とし、排水層を設け、軽量土壌を使用し、点滴パイプを敷設した手動の灌水設備を設ける。
4. 狭く囲まれた緑地での高木の植栽では、通気透水管(合成樹脂透水管等)を敷設すること。樹高4m前後の高木1本当たり、通気透水管(径80mm、長さ1000mm前後)を4本前後を基準とする。

■ 凡例(一部)

<グランドカバー・プランツ類> オタフクナンテン、コクチナシ、 アベリアコンフェッティ等
<地被植物類> フィリヤブラン、ノシランピタータス、 ツワブキ、ヒメシャガ等
<ツル植物類> モッコウバラ、スイカズラ、ムベ、 カロライナジャスミン、トケイソウ等
<ハーブ・多年草草花類> ローズマリー、ラベンダー、タイム、 レモングラス、ワイルドストロベリー、 セージ類、ユリオプスデージー、 アジュガ、エリゲロン、ヒューケラ等